

平成30年4月10日 第57号

柳川郷土研究会
会誌「水郷」付
すいきょう

瓦版

発行所 柳川郷土研究会
柳川市大和町栄1078-3
発行人 武末十治男
編集責任者 金子俊彦



火

「棘なしのシャボテン」

シャボテンには表面に棘がある。葉の変形したものだそうだ。外敵から身を守るためである。その棘のないシャボテンを作った人がある。ルーサー・パンバーグ博士という米国人である。生えてくる棘を丹念に刈り取っては次々と交配を重ねて、と違って違っていた。

「素敵なお前だが、棘がなければもつと素敵だと思ふよ。無くとも誰もお前を傷つけはしないよ。棘がなくなつたらもつと可愛いがつてあげるよ」とそばに口を寄せて優しい声で朝に晩に毎日語りかけていた。そのうち何時しか棘がなくなつたという。

それを聞いた東京にあるアメリカンスクールの生徒たちが桜草で試してみた。

二つの鉢の片方だけに「あなたはとつても可愛いわ」というようなことを毎日掛けていたら、もう一つの桜草よりもずっと綺麗な花を咲かせた、という。

ツツジが咲き終わると、植木職のおじさんが何やらブツブツ言いながら、肥料をやっていた。「なに言つてたの」と聞いたなら「綺麗に咲いてくれて有難う。来年もまたね、とお礼をやっていたんですよ」物言わぬ、耳もない植物に言葉が通じるとは考えられないが、「心」は通いあうのであろうか。

一般的な考え方（武末十治男）

植物だけではなく、人間だつて老若男女を問わず愛情と思いやりの心で接すれば、自分にも幸せな生活も訪れる事になると思います。